

ながのボランティア・市民活動支援ネットワーク設立 20 周年

## 支援ネットのあゆみ

支援ネット理事

エーシーエ設計株式会社 代表取締役 竜野泰一

ながのボランティア・市民活動支援ネットワーク（以下、支援ネット）の構想は、1999年の長野青年会議所の福祉政策委員会で示されました。それが現在のような組織として立ち上がったのが4年後の2003年でした。2001年以降は青年会議所の委員会組織から離れ、自主的に集まったボランティア組織となっていたので、すからもっと気楽に捉え、動き出してから都度組織改革、事業の見直しをしていても良かったのではないかと思います。

当時はしっかりした組織を立ち上げ、しっかりした事業を行うといった理想を意識しすぎ、議論を重ねに重ねた結果、今思い返すと立ち上げに時間がかかり、少し堅苦しい組織ができました。現在は込山会長の下、堅苦しさはなくなり、私自身は以前よりずっとお気楽な感じで関わる事ができています。

この組織は皆さんに親しまれやすく、まずは参加してみようと思ってもらうことが大切です。組織ありきではなく、参加者の様々な声を聞くことで社会のニーズを感じ取ることができれば良いのではないかと思います。

支援ネットには、立ち上げ当初から続いている3つの事業があります。様々なボランティアグループの情報交換の場となっている「月例情報市場」事業、ボランティア・市民活動を資金面で支える「ささえあい応援金」事業、「物品情報提供」事業です。それぞれの事業は現在も継続しており、それだけ市民の皆様にご期待されているものと思います。今後もそのような事業を通じて少しでも市民活動の輪が広がっていくことを願っています。

## 支援ネットのあゆみ 2015～2023

年	月	出来事	写真
2015	11	玉村町講演201411(込山理事、戸田理事) 一般社団法人たまむら住民活動支援センターの依頼で第23回ばる交流会 「住民活動と異分野との共存を探る」	
2015	6	失語症フォーラムin長野 (内山理事)	
2018	2	「地域づくり出会いのひろば」に参加 長野県長寿社会開発センター	
	8	長野市災害ボランティア委員会発足 支援ネットも団体会員として参加 西日本豪雨災害に対し支援活動を行う	
	9	箕輪町から長野市ボランティアセンターの視察あり、情報市場にも参加していただいた (箕輪町ボランティアセンター運営委員、箕輪町ボランティア連絡協議会、箕輪町社会福祉協議会 地域ふれあいグループ職員)	
	11	情報市場が軽井沢に伝わる 軽井沢町社協による「情報市庭」に込山会長が参加 「市庭」は軽井沢の地名	
	12	ボランティアのつどいに参加しパネル展示、リーフレット配布	
2019	2	長野県長寿社会開発センター「地域づくり出会いのひろば」に参加	

年	月	出来事	写真
2019	5	全国社会福祉協議会の「ボランティア情報5月号」に支援ネットの取り組みが掲載される	
	7	出張情報市場（西敬寺） * 木賣理事のお寺	
2020	10	月例情報市場200回記念 Deあってよかった 月例情報市場200回記念 拡大版	
2022	9	情報市場夜開催開始 奇数月19時～20時、偶数月16時～17時 公式LINEにて情報発信開始	
2023	10	長野県長寿社会開発センター「地域づくり出合いのひろば」に参加	
	12	20周年記念拡大情報市場・ボランティアのつどい・ボランティア活動市民会議同時開催	



## 経営資源提供事業

# 物品情報

ボランティア・市民活動を進めていく上で必要な経営資源（物品、情報、資金、人材）を、様々な企業や団体等、社会一般から提供いただき、ボランティア・市民活動をより活性化させることを目的としています。

支援ネット理事

長野県長寿社会開発センター 戸田千登美

資源の提供システムづくり事業として「物品情報」の部門を立ち上げました。

今では珍しくありませんが、20 年前は企業、ボランティア.NPO を物品でつなぐ役割は先駆的だったのではないのでしょうか。物品を通じてボランティア.NPO の活動がより発展し、施設であれば一人一人の生活がより豊かになっていくとともに、提供する側の意識も変化していたのではないかと思います。「物品情報」が普段は出会わない人や組織団体を出会わせ、関わった人の意識までも変化させていくツールになっています。

2020 年 テレビ  
洋服タンス・ベッド



2022 年 軽トラック



2021 年 機織機



2023 年 家電・  
子ども用キッチンセット



# 物品提供のマッチング実績例（一部）

年度	品名	提供元	提供先	物品提供・希望情報	マッチング件数
2015	自転車	ケーズタウン	長野県地域生活定着支援センター、まいさぼ、LDCなど	150	15
2016	ミシン、カラーボックス、電子ピアノ	三井ホーム	個人、ヒューマンネットながの	91	19
	長寿社会開発センター	シーツ、タオル	長野県地域生活定着支援センター		
2017	介護用ベッド、電動車いす	ボラセン	ワークハウス太陽おおぞら	105	35
	ベビーベッド	子育てねっと	長野市ボランティアセンター		
2018	こたつ、冷蔵庫、洗濯機、布団一式、	まいさぼ長野信州	デフネットながの	92	45
	綿毛布、敷きパット、長座布団、肌着、フライパン、電気ストーブ、バスタオルなど	ボラセン	長野県地域生活定着支援センター		
2019	事務用椅子、カラーボックス、スポーツ用品、コーヒーマーカー、キッチン用品など	エイブルデザイン	ワークハウス太陽おおぞら、だいち	113	96
	ガスファンヒーター、カセットコンロ、冷凍庫、電子レンジ、洗濯機、布団など	ライフデザインセンター	長野県地域生活定着支援センター ワークハウス太陽おおぞら		
2020	家電（掃除機・冷蔵庫・電気ポット）家具（テーブル・衣装ケースなど）	LDC	長野県地域生活定着支援センター 反貧困ネット	36	18
	ベッド・洋服タンス	川中島建設	松代福祉寮		
2021	家電・家具（冷蔵庫・テレビ・石油ファンヒーター・エアコン・電子レンジなど）	三井ホーム	ワークハウス太陽おおぞら	19	16
	木製織機	ボランティアセンター	絆の会		
2022	災害支援炊出し用（野菜・リンゴ、いなり寿司、調味料、お菓子、ドリップ珈琲）	ゆる〜いおっさんの会、天空の里いもい農場、飯綱リンゴ農家、ベイクックコーポレーション（株）、台東食品（株）、個人	新潟県関川村で、長野市災害ボランティア委員会が炊出しを行った	15	13
	中古軽トラック	離農した農家	若い兼業農家		
2023	電子レンジ・卓上扇風機・電気スタンド（ペンションで使わなくなった家電）	峰の原ペンションきら星	長野県地域生活定着支援センター、長野県長野地域振興局 長野地域こどもカフェプラットフォーム	37	30
	ファンヒーター・電気ポット	個人	長野市ボランティアセンターを通じて高齢者福祉施設の生活困窮者へ提供		
	ホットプレート・寿司桶	個人	祥雲高等学院明達館スネック（S N E C）長野		
合計				658	287

支援ファンド活動支援事業

## ささえあい応援金事業

支援ネット理事

天空の里いもい農場 西沢 和宏

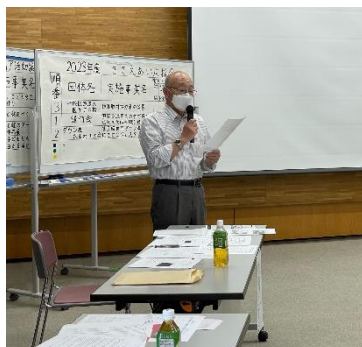
ささえあい応援金事業は、会員から寄せられた会費を原資として、NPO・ボランティア・市民活動グループによる自立的な活動を金銭面で支援することで、豊かで安定した地域社会をつくり出すことを目的としたものです。2015年以降、28 団体 1,840,200 円をさまざまな団体へ助成を行いました。

助成団体それぞれが実施する活動は、どれも暮らしに寄り添ったものばかりです。この 10 年では、子どもの貧困、社会的孤立、地域振興、アニマルウェルフェア、エシカル消費、平和、子どもや高齢者の居場所、認知症、日本の伝統文化継承、被災地支援、障がいへの認知向上、国際交流など、多様な活動がささえあい応援金を得て実施されました。それぞれ、パートナーシップで課題を解決していくという SDGs の目標に重なり、地域社会に必要とされる活動が広がりました。

助成金を得て、事業を実施し、終了報告を行うのが、社会に多くある助成金の流れですが、ささえあい応援金は、公開審査会・情報市場と連動することにより、手厚いサポートも大きな特徴です。助成金を得るタイミング、事業を実施するタイミング、終了したタイミングで、情報共有やアドバイスを伴走して行っています。助成団体の中には、ささえあい応援金をステップにして、県域区・全国区の助成金に挑戦し、さらに活動を広げている所もあります。

ささえあい応援金を通じて、私たちの暮らしが明るく・楽しく・豊かになることを願いながら、次の 10 年、20 年につながるよう、取り組みを進めてまいります。

### 2023 年公開審査会





2016 年ささえあい応援金助成団体 （20 周年記念拡大情報市場 事例発表）

## 天空の里 いもい農場



2016 年、ささえあい応援金で整備した道具で収穫

### ▼取り組み（活動）の概略

「天空の里 いもい農場」は、長野市中心部からほど近い芋井広瀬地区にある芋井社会会館を拠点として、子どもたちとその家族に「食農体験の場」を提供しているボランティア団体です。遊休農地を活用した農作業をはじめとして、活動を通じて出会った風景、出来事、生き物、環境や地域の事などの発信を通じて、地域活性化の一助となることを願いながら活動をしています。

### ▼支援ネットの活動をどこで知りましたか？

2014 年に活動が始まり、クワやカマなど、手作業の農作業をしていましたが、活動を広げるために農機具の更新と追加をしたくて、ボラセンに声掛けをし、情報市場を紹介していただきました。

### ▼情報市場に参加しての感想。どんな情報が有益でしたか？

2016 年 4 月の情報市場に初めて参加しました。その場で、ささえあい応援金の情報を入手し、農機具の購入を行うために公開審査会に臨む覚悟を決めました。2016 年 5 月の情報市場は、参加者から耕運機や離農で使わなくなった農機具の譲渡の話も頂戴し、トントン拍子に活動充実につながり、戸惑ったことを覚えています。今思うと、これぞ、情報市場のネットワーク！と感じています。

### ▼情報市場に参加してどんな繋がりができましたか？

いろいろな方と活動をすることで、活動がマンネリ化せず、化学反応を起こして進化してきました。

### ▼ささえあい応援金や物品は、どのように活かすことが出来ましたか？

草創期の農機具追加更新で、参加者に農業体験をしていただける状況が強化され、発展期を迎えることができました。その後、長野県みらい基金のクラウドファンディングなどにも挑戦し、発展のために挑戦していく勇気をもらいました。今は、子ども農具の導入や、農業体験と子どもの居場所作りを連携した取り組みで、全国にも誇れる場となっています。

### ▼支援ネットの今後について要望、期待することなど

さまざまなボランティア団体をゆるやかにつながり合うことで支援ネットワークを組んでいくことができれば、よりよい社会になっていくものと思います。ささえあい応援金・情報市場が 300 回 400 回続くことを願っています。

# ささえあい応援金助成団体・事業一覧 2015～2023

8

No.	年度	団体名	助成金額 (円)	対象事業
1	H27 (2015)	シングルマザーの会	80000	長野市内におけるシングルマザー支援の情報パンフレットの作成と配布事業
2		NGO Life Investigation Agency(LIA)	75000	災害における動物の保護と日常的に殺処分される動物たちの命をつないで人と動物の明るい未来へ
3	H28 (2016)	天空の里いもい農場	70000	遊休農場を地元芋井の農家から借り受けて、食農体験企画を実施。地域との交流を大切に手作業を中心に野菜などを栽培し、収穫したてのやさいをすぐに味わう。
4		さわやかアンサンブル	50000	高齢者を中心とした居場所作り仲間作り。音楽を通じ地域の子供たちとふれあい、更に歌に演奏にと音楽を楽しむ。
5		特定非営利活動法人NPOホットライン信	70000	子どもの貧困の実態と「こども食堂」を知ってもらうための信州こども食堂フォーラム開催。
6		ねこの命をつなぐ会	20000	保健所から引き取った猫を飼育し、新しい飼い主を探す（シェルターの活動）。猫の飼い方教室、猫に関する相談受付、獣医による講演、シェルター見学・手伝い体験。
7		更北地区結婚相談所	30000	結婚を望んでいるが、出会いの機会が少ない男女の結婚支援の為、場の提供とセミナー開催。
8		離婚・別居後の子ども面会交流・権利促進	60000	親の離婚や別居を経験した子ども達、そしてその両親、縁者などを対象とした相談・支援活動。
9	H29 (2017)	ながの協働ねっと	100000	榎堂〇〇フェスタ～地域×アート×人 ①榎堂アート企画 ②ヒューマンライブラリー ③デフパペットシアターひとみ上演
10		NPO法人みどりの市民	85200	エシカル消費についてワークショップを開催し、私たちの消費行動がどのように社会・未来・環境と繋がっているのかを学ぶ
11	H30 (2018)	子どもの問題を考える会長野	90000	地域力を活かす子育てサポート事業 「発達障害」をテーマとした映画上映会と自立訓練法講座・グループディスカッション。地域住民にも関心を持ってもらい支えあっていく環境づくりにつなげるきっかけ。
12		ブックシェアリングながの実行委員会	80000	えほんでつながろうプロジェクト 市内の病院・診療所・キッズスペースのある施設等に寄付や購入の本にカバーをして配本、定期循環。子どもに絵本に触れる機会を増やす。
13		国沖支え愛ネットワーク	80000	こだま（世代交流）事業 地域の中で高齢者と子どもの外出や交流の機会を増やすために地区の大会で好成績を目指しスマイルボーリング用具を購入して活用する
14	R1 (2019)	被爆体験を聴く会実行委員会	50000	あの日のヒロシマを忘れない被爆体験を聴く会 8月25日（日）ホクト文化ホール小ホールで、被爆体験の伝承講和を一般市民に向け話してもらおう。お互いを尊重しあい、いのちの大切さを考える場とする。
15		オレンジカフェつるが	60000	オレンジカフェの活動紹介、認知症の体験をとし、介護についてより多くの方に知ってもらうため、人が多く集まる長野駅ビルで周知活動を行う。
16		NPO法人みどりの市民	70000	“もったいない”の心を育むためにエコ調理のススメ～キッチンからゴミ減らし～パンフレット作製 食品ロスとなるものを減らすため「楽しいエコ調理」の方法を研究する。エコ調理の普及を図るため、パンフレットを作成する。
17		翠翔会	50000	子ども食堂映画上映会 居場所提供を子ども食堂で無料の映画上映会を実施予定。
18	R2 (2020)	翠翔会	20000	ドライブインシアター三輪 台風19号に続きコロナの影響もあり地域活性化する為地域と一体化し、三輪商店会長を通して三輪地区育成会などと翠翔会にて共催のドライブインシアターを行う。県立長野大学と共に情報発信し地域活性化を促す。
19		信州こども食堂 古里こどもカフェ	50000	古里こどもカフェ 地域の子どもとお年寄りの交流「子どもを見守れる大人」づくりのためのプラットフォーム作り、被災した家族に寄り添う「子ども食堂」としての支援活動。
20		NPO法人 ヒューマンネットながの	30000	長野市ユニバーサルトイレマップ善光寺版 改訂版制作 2015年に制作した長野市ユニバーサルトイレマップ善光寺版を改訂し、新たに英語表記版を作成する。
21		民謡＆津軽三味線 謙竹会	100000	少子高齢化に伴い日本の伝統文化継承者が激減している昨今に危機感を感じ次世代の子どもたちに伝統文化を継承育成し担い手をつくる。ボランティアやチャリティコンサート、街のイベントに参加し子どもたちの忍耐努力の心を養う。
22	R3 (2021)	長野市ひとり親家庭福祉会 happy single family room	40000	援農ボランティアにきている母子のための保育、体験学習事業 援農ボランティアにきている母子に対し保育・体験学習等を行うことで、コロナ禍で孤立する母子問題に取り組み、母親の自立や地域活性化に繋げる
23		松代駅舎築100年を祝う会	100000	旧屋代線松代駅舎を活用した町民交流と町活性化事業 松代駅舎を観光資源として活用するためにアーティストと会を発足し、イベントや展示を開催
24		チームケイスケ	60000	被災住宅およびお寺の再建支援 被災した住宅及び寺の部材の撤去・清掃を行い、大工・業者に適切な状態にして引継ぎ、早期再建も手助けをする
25	R4 (2022)	ゆる～いおっさんの会	60000	農業を通じて豊かさを提供（農業PJ）、ごみ拾いボランティア 地域住民の方々と農業体験を通して、野菜作りの楽しさと大変さを共有する
26	R5 (2023)	ダウン症長野ひまわりの会	100000	第2回世界ダウン症の日「にこにこフェスタ」 長野県内のダウン症及び他の障害を持つ方やその家族の交流会
27		一般社団法人 医ケアの輪	80000	動画取材協力者の公募 県内のバリアフリー施設へアポを取って訪れその様子を医ケア児家族への情報提供を行う
28		民謡＆津軽三味線 謙竹会	80000	国際交流事業の中で日本の伝統文化（三味線）を伝える 長野市と姉妹都市の中国石家荘市からの留学生に三味線の体験をして演奏できるようにする
		合計	1840200	



行政・企業・NPOのネットワークづくり事業

## 月例情報市場

月例情報市場において、参加団体から情報提供いただくことで、参加団体間の情報ネットワークを築き、ボランティア・市民活動をより活性化させることを目的としています。

支援ネット 会長 込山 哲也

ある高齢者施設の職員は、入居されている方に生きる張り合いを持たせたいと考えていました。得意な「雑巾縫い」ならテーブルを囲んでお話をしながら無理なくできるはず。職員は月例市場を訪れ参加者に訴えたところ、入浴施設の方から、処分するようなタオルですけど、使ってもらえるなら是非ともお願いしたいとのこと。その職員は、入居者さんに張り合いが生まれたと喜んでくれました。その雑巾は、学校や災害時で使われることで世間との接点となりました。

ある企業の社会貢献に携わる担当者が「会社で何かボランティアを始めてみたいと」相談。貴方は何が得意？と聞かれ「合コン、人と人をつなげることが得意です。」と自慢げに語ってみたら、ボランティアセンターかわらばんの記者として役割をもらい、いつの間にか支援ネットワークの会員になり、月例情報市場の司会をやっているのが自分でした。

人生は一つの出会いで大きく変わります。得意なことを無理なく続けていけば役割がもらえて、いずれ特技になります。毎月開催される情報市場は、誰が参加するかもわかりません。どんな情報がやってくるかもわかりません。そんな中でも皆さんを60分間の中で笑いと共有の時間を作り上げていくファシリテーターは、本当に大変ですがやりがいがあります。この情報市場が地域を超えて日本中へ拡散したら、日本は元気を取り戻すこと間違いなしです。

情報市場の開催人数（2015～2023 年度）

開催回数 延べ 242 回

開催年	人数	行政・社協・企業 支援センター等・ 自営業・民間団体	ボランティア・ 市民活動団体・ 個人	支援ネット・ ボラセン
2015年度	168	あわせて115		53
2016年度	161	38	67	56
2017年度	117	24	52	41
2018年度	118	16	53	49
2019年度	142	22	60	60
2020年度	128	20	59	49
2021年度	138	20	69	49
2022年度	164	14	80	64
2023年度	216	16	128	72
合計	1352			



2015 年・2019 年

## 出張情報市場 IN 西敬寺

支援ネット理事  
西敬寺住職 木賣 慈教

### 2015 年 9 月 16 日

当院にて初開催のボランティア情報市場、多くの方々にご参加頂きました。

終了後、居心地が良かった。和やかな気持ちになれた等と皆さんから喜びのお言葉を頂き、有り難かったです。へ

込山会長の facebook 投稿より抜粋

本日は、月 1 回のちよいボラ

月例情報市場が、ボラセンを飛び出し出張しました。

場所は何とお寺です。お寺とは開かれた場所だと常々  
思っていました。24 名の参加者が積極的に思いを語り  
合いました。10 年越しの思いが実現できました。



### 2019 年 7 月 17 日

「ライフデザインセンター長野事務所」さん主催の勉強会  
と、「ながのボランティア・市民活動支援ネット」さんの  
「情報市場」を西敬寺の本堂をお借りして開催されまし  
た。勉強会は、定員 20 名（今更ながら、何故 20 名  
だったんだろう…）一杯でした。情報市場は、相変わら  
ずアンテナの高い方たちが、それぞれに情報を持ち寄り、  
それぞれの情報に対してアドバイスや、ご縁結びが成され  
ました。ご参加頂いた皆様有難うございました。



## 支援ネットの総合力を活かした災害支援

支援ネット理事

長野市災害ボランティア委員会、山楽会 高澤千明

### 平成 30 年 7 月豪雨災害・広島県呉市に行く

平成 30 年（2018）7 月 5 日から 8 日にかけて停滞した梅雨前線による豪雨災害が西日本を中心に発生、長野市災害ボランティア委員会として被災された広島県呉市に 9 月から 10 月の間に 3 回のボラバスを計画、1 回目の 9 月 21 日～24 日に 9 名の一員として参加した。



広島は遠い、一日がかりで現地に入り、天応、西地区の親子（女性）で住む一軒家、裏山からの土石流により被災、その土砂の搬出、翌日は安浦地区の太陽光パネル下の土砂の搬出に汗を流した。

### 令和元年台風 19 号災害の被災者支援

10 月 10 日から猛烈な勢力の台風により長野県各地に被害をもたらした。特に長野市では 12 日に接近し千曲川では 13 日未明から越水、2 時過ぎには穂保地域の堤防が決壊した。

長野市災害ボランティア委員会は 13 日に情報共有会議を開催し、当面の取り組みや意識合わせし具体的な活動となった。支援ネット・山楽会は 10 月 15 日から 11 月 13 日まで松代地域・豊野・長沼地域で被災者宅のゴミ搬出、泥掻き出し・搬出、壁撤去作業等々を行い、稼働日 37 日、活動人員のべ 179 名、稼働軽自動車 60 台活動した。また被災者支援として炊き出しのサポート、NPO とのコラボ 餅つき、絆の会 皆神ハウスとカレーの炊き出し、ぬくぬく亭の立ち上げ支援（ソファ・テーブル・椅子の調達・搬入）をした。



物資の調達は、マルコメ味噌に依頼しキーマカレー 1,200 個 あら汁 1,500 個 タニタ食堂野菜・あおさ 1,600、マーボーナス 100 個、タコライス 100 個を長野市ささえあいセンター・長野市災害ボランティアセンター・賛育会の被災者支援活動、炊き出し等へ橋渡しをした。ウインドウブラウン N E X に依頼し 11 窓分のカーテンを調達し被災者支援にあてた。

### 令和 4 年 8 月 3・4 日 豪雨災害 新潟県関川村・村上市へ行く

線状降水帯が発生し 8 月 3 日の夜から降り続いた豪雨により甚大な被害が発生した。新潟県関川村・村上市へ被災者宅の床下・家屋周辺の土石の搬出、家屋の掃除等々ボランティア活動を 8 月 27 日から 4 回行った。また地域の住民によるコミュニティーの一助、支援物資のお届けや炊き出しを計画し、豚汁とお稲荷さん、りんご等を提供する。野菜等の材料は「おっさんの会」「天空の里いもい農場」「謙竹会」他、お稲荷さんは「ベイクックコーポレーション株式会社」の支援により行った。





## 会員企業担当者の声

あらゆる協働が戦力になる ～“弱み”を“強み”に！「つながり」づくりが最大の備え～

日本労働組合総連合会長野県連合会 会長 根橋 美津人

安心して暮らし、働くための大前提は「社会が平和で安定していること」を改めて痛感させられる情勢が続くなか、「多様化するリスクから働く仲間、そして地域を守るには、私たち一組織ですべての対応ができるわけではもちろんなく、行政や関係団体との協働がカギ」になります。そのためにも日常・平時からの連携、すなわち構成主体の強みと弱みを見える化し、強みを高め、弱みを克服する道筋をつけておくこそが、効率的・先進的な支援・貢献につながると確信しています。

近年「中間組織」の衰退が社会を弱体化させていると指摘されています。これまで「共助」「支え合い助け合い」のシステムを担ってきた存在の機能低下が、おのずと「自助」に頼らざるを得ない社会に向かわせているのではないのでしょうか。

市民活動支援ネットワークを通じて“つながりを豊かにする”ことが地域を切り拓く力になる！この厳しい社会情勢を、協働の力で乗り越えてまいりましょう。

## 地域共生社会の実現のための“参加と協働”

長野市社会福祉協議会 地域福祉課 主幹 上條 徳善

「地域共生社会の実現」が、ニッポン一億総活躍プラン（平成28年6月2日閣議決定）において盛り込まれました。地域共生社会は、福祉施策が担う「支え・支えられる関係が循環し、誰もが役割と生きがいを持つ地域社会の醸成」だけでなく、社会・経済活動の基盤としての地域での「人と資源が循環し、地域社会の持続的発展の実現」の視点も重要であり、地域での暮らしを構成する幅広い関係者による“参加と協働”が求められる取組とされています。

支援ネットでは設立当初から「情報市場」「物品情報」「ささえあい応援金」の3つの事業を通し取組んできていたことに、その先駆性について感心しきりです。

長野市社協は地域福祉を推進する中核的な団体として、誰もが支え合いながら安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりの推進を使命としています。その使命を達成するため、地域の多様な主体とつながり、つなぎ、つくるパートナーシップの展開を図り、連携・協働を積極的に推進しています。

今後も支援ネットの活動を通して地域共生社会の実現のための“参加と協働”が進むことを願っています。



## ながのボランティア・市民活動支援ネットワーク、祝 20 周年、この尊さ

八十二銀行人事部 上條智洋

20 周年、おめでとうございます。

支援ネットの素晴らしさとして私が感じたのが、いい意味での「緩さ」と「続ける力」です。

情報市場は本当に行き当たりばったりの場でした。実際に何か伝えたいことがある人、ない人（話だけ聞きたい人）、テーマも様々で、どうなるんだろう？と心配しましたが、そこは参加者の皆さんが何とかしてくれます。話そうかな、行ってみようかなと思った気持ちは必ず前進していると思います。素敵な「緩さ」があります。

この活動を続けることにも当然力が必要です。活動自体への自問自答もあったと伺いました。手を離せばいつでもやめることができってしまう活動かも知れない、それでも続けてきた、尊い 20 年だと思います。

支援ネットの活動が今後もいい意味で緩く、持続可能な活動となって多くの人の喜びにつながることを願っております。

# 助成団体の声 2015～2023

## ながの協働なつと

2017 年度助成

**1. 主な活動：**長野市内を中心に活動する NPO や任意団体、企業のネットワーク組織です。相互理解と交流を主眼にしながら、新たな協働を生み出すプラットフォームとして設立、さまざまなプロジェクトを実施してきました。

**2. 助成金を使った事業：**2017 年権堂地区をフィールドに多様な人々が集い交流し、理解しあうイベント「権堂〇〇フェスタ」を開催。デフパペットシアターの人形劇や人が本になって自らを語るヒューマンライブラリーなど。

**3. その後の発展：**イベント内で実施した「ヒューマンライブラリー」は、翌年・翌々年も開催しました。本役の方は、障害のある方(視覚、発達、内臓障害など)、権堂商店街でバーを経営するママなど、参加した人は多様な生き方や人に触れる機会となりました。特に、翌々年は学生との協働での開催となり、企画段階から学生たち中心に作り上げるイベントに発展しました。



ヒューマンライブラリーとは、生きた人間が本役となり、一般の読者に貸し出す対話型イベント活動

## 被爆体験を聴く会実行委員会

2019 年度助成

**主な活動：**世界で唯一原子爆弾により被爆したヒロシマとナガサキの悲惨な状況を次世代へ引き継ぐとともに平和を維持する為に自分達に何が出来るか考え行動する。

**助成金を使った事業：**2019 年 8 月 25 日ホクト文化ホール小ホールにて広島市の被爆伝承者 1 期生の宮本憲久さんに講話を頂くと共に来場者とトークセッションを行いました。約 300 名の市民に来場頂きました。



**その後の発展：**2020 年からは、広島平和記念資料館から原爆に関わる DVD を借りて放映するとともに、原爆誌をやまびこ会に朗読頂き、学習会の開催を 2022 年まで開催しました。2022 年に被爆俳人松尾あつゆきの教え子竹村昌男さんと知り合うことが出来ました。2023 年の被爆体験を聴く会は、長崎から松尾あつゆきの孫にあたる平田周さんに家族証言者として松尾あつゆきの残した俳句や日記を中心に原爆の悲惨さの講話を頂くとともに竹村昌男さんと松尾あつゆきの研究をされた信濃毎日新聞の上野啓祐さんを交えたトークセッションをふれあい福祉センターで行いました。

## 信州子ども食堂 古里こどもカフェ

2020 年度助成

**主な活動：**毎月第 2 日曜日、地域の集会所にて子供食堂を開催。工作などの学習支援、会食、食材・日用品の提供を実施。うち奇数月のみ被災地支援として、JA アグリながめ第 2 駐車場で、屋台村、お弁当、食材等の配布。

**助成金を使った事業：**助成金にて、2 升炊き炊飯器を購入させて頂きました。月 1 回、加えて被災地支援のある奇数月は 2 回の子供食堂を開催。その後は、資金を補うため他の助成金を利用し、5 升炊きガス炊飯器を追加購入しました。

**その後の発展：**発足当時 40 名足らずの参加者は、おかげ様で現在は倍の 80 名程に増えております。助成金によって、ご飯も 6 升炊いて子供達にお腹いっぱいのお食事を提供出来るようになりました。月々の開催では、ひな祭り、すいか割り、クリスマス会、餅つきなど、なるべく季節の行事を取り入れ、長期休みには野外に出かけ、デイキャンプなどを通じて食育学習支援を行ったり活動の幅を広げる事が出来ており、この助成金制度に大変感謝しております。





## ゆる〜いおっさんの会

2022 年度助成

**主な活動：**地域のコミュニティの希薄化に伴い、人と人の繋がりを大切にするために仲間に遊休農地を耕して農業体験を通じて世代間交流を図る。そこで、四季折々野菜を栽培して、農業の楽しさ大変さをみんなで共有していく。

**助成金を使った事業：**ゆる会農園を活動の場として整備をしてから野菜を栽培してその時の季節を感じたり、味わってもらうために子ども食堂、福祉施設、高齢者宅等に野菜をお届けをして、特に高齢者の方々から好評を得ています。また他の野菜栽培にチャレンジしてみたいと考えています。（ビブス、看板、のぼり旗等を購入）

**その後の発展：**農園で収穫したイモ・サツマイモ等で学生さん、子ども達や地域の方々とのサポートにより焼き芋大会を開催しました。子ども達のふれあいで最高の笑顔と元気をもらいました。またあらためて野菜のおいしさ知り、食への興味を深めてもらいました。さらに、世代間交流を図り、地域を元気にして持続可能な社会を目指したいと思っています。子ども達の笑顔は地域のチカラとなります。



## ダウン症長野ひまわりの会

2023 年度助成

**主な活動：**ダウン症のある方やそのご家族が安心して暮らしていけるように活動しています。主に、毎月の定例会（おしゃべり座談会、施設見学会、運動教室など内容は様々）や、年4回の会報誌「ひまわり通信」を発行しています。

**助成金を使った事業：**ダウン症のある本人とその家族のありのままの姿を社会に知ってもらいたい、当事者同士が安心して楽しめる場を作りたいという思いを込めて、当会有志のメンバーによる実行委員会が中心となって、「世界ダウン症の日にこにこフェスタ」を開催しました。



**その後の発展：**にこにこフェスタの準備過程でたくさんの方々と出会い、私たちの活動や思いに耳を傾け、支援してくださる方が増えていきました。また、イベント当日は、県内の学生ボランティアさん約 80 名がご参加くださり、未来の社会を担う世代の皆さんにもダウン症や障がいを知っていただくきっかけを作ることができました。イベントを通して、たくさんの方々に、私たちのありのままの暮らしをより身近に感じて頂けたのではないかと思います。

## 民謡&津軽三味線 謙竹会

2020・2023 年度助成

**主な活動：**三味線の継承と普及、演奏依頼等に応じてボランティア演奏等

**助成金を使った事業：**2020 年第五回伝統芸能子どもフェスティバルに参加する子どもたち、2023 年中国石家荘市からの留学生が演奏するための三味線の皮張り修理、備品購入

**その後の発展：**2020 年第五回伝統芸能子どもフェスティバル、2023 年中国の留学生が市長表敬訪問、ワールドフェスティバルで、修理出来た三味線を使って稽古や演奏することが出来た。

